

第2回志度東地区学校再編計画地域協議会 会議録

日 時：平成19年11月14日（水）19時00分～20時40分

場 所：鴨部ふれあいプラザ

参加者：委員19名（欠席5名）

事務局 教育長・教育部長・教育総務課長・学校教育課長・担当職員4名

傍聴人：なし

（会議内容）

1．会議及び会議結果の公開・非公開について
出席者委員全員の賛成により、公開とする。

2．議題

（1）さぬき市地域連絡協議会委員の選出について

以下の3名を選任する。

会長 角 昌五郎

副会長 木村正美

委員 植村直樹

（2）さぬき市学校再編計画（案）について

事務局より、再編計画（案）の策定経緯、学校の現状、学校の適正規模について説明。

（3）質疑応答

（委員）平成18年度の検討会で残された課題はなかったか。

（事務局）具体的な年次計画、建設の場所については示されなかった。今後、皆さんの意見を聞いたなかで、決定したい。

（委員）財政面については考えているのか。

（事務局）概算予算は、算出している。このことについて、財政課とは、協議済みである。

（委員）建設計画はあるのか。

（事務局）基本的には、地域でまとまったところから進めていく。今後、各協議会の協議内容を踏まえ具体的な計画（案）を示したい。

（委員）この校区に関して、中央小学校の改築か。それとも新築になるのか。

（事務局）具体的には決めてない。

（委員）1クラス40名はどのくらい拘束力があるのか。さぬき市の教育をより魅力的にするためには、40名にこだわらなくてもいいのではないか。

(事務局) 法律では、1クラス40名以内と規定されているが、重要科目については、少人数教育を実施している。再編に向け、今まで以上に教育の充実を目指すため、より柔軟に対応していきたい。

(委員) 資料P7の8の、中学校では教科担任制で、4学級が必要であるという意味は、4クラスあればいろんな専門科目の教師がそろうので、教育の内容が充実してくるということですか。

(事務局) 同じ教科にも複数の教職員を確保できる。また、部活動の指導者も確保しやすい。

(委員) 小学校にも専門性というのが必要。ある程度の規模がないと確保できないのか。

(事務局) ある程度の学級数が必要である。

(委員) 小・中一貫校ができれば展望が開けるのではないか。

(事務局) 高松市で計画をしているが、その成果はまだ分からない。

(委員) 小田小は、1学年4,5人なので、4クラスの中学校に行ったらバラバラになる。横の繋がりも大切である。例えば、先に小田と鴨部が統合、その後、3校に統合という2段階の統合は、計画案にもりこんでいけるか。

(事務局) 検討課題の一つとする。

(委員) 協議会の回数だけこなしたら、地域の声を反映できたということなのか。

(事務局) そうではない。この協議会を基に出来得る限り、多くの意見を聞き判断をする。

(委員) テーマを絞って検討していかなければ間に合わないのではないか。

(事務局) 今後、具体的なテーマを提示し、協議をお願いする予定である。

(委員) 計画(案)が示す位置に中学校を新たに建てた場合、校区の変更は考えているのか。

(事務局) 検討課題である。

(委員) 計画(案)の位置に中学校が移転した場合、天王中・大川一中の校区も近くなるが。

(事務局) 関係する協議会の委員が会する場が必要と考える。検討したい。

(委員) 校舎の耐震についてのデータはあるのか。

(事務局) 簡易診断の結果はある。津田小、志度中体育館等の、最近建てた建物以外は耐震補強が必要。

(委員) 仮に廃校になったとしても、体育館は残してほしい。
(事務局) 前向きに考えていく。

(委員) 跡地利用計画も今回の検討対象になっているのか。
(事務局) 協議の対象になっている。

(4) 次回の日程について

開催日時：平成19年12月13日(木) 19:00から

場 所：鴨部ふれあいプラザ

議 題：「小学校の再編について」